



## あなたもチャレンジ! 家庭菜園

### 根深ネギの植え付けとその後の管理の要点

板木技術士事務所 ● 板木利隆

春3月に種まきした根深ネギ(白ネギ)の植え付けは、苗の太さが1cm内外に育った7月中～8月上旬が適期です。

大きく育った苗は、この頃にネギアザミウマやアブラムシなどの害虫やさび病、べと病などが発生しやすいので、苗床では殺虫剤や殺菌剤を散布して防除しておきます。ネギの葉は薬剤が付きにくいので、展着剤を加えることが大切です。

苗床から抜き取るには、根元にくわを打ち込み、根をたくさん付けるよう配慮して行います。

抜き取った苗は、大、中、小ぐらいに分けて植え付けます。こうすると畑で土寄せ、追肥をするときに、大きさ別に区別して行うことができ都合です。

植え付けに当たっては、まずきちんとした植え溝を作ることが大切です。列の間隔を80～90cm取り、くわ幅の30cmぐらいの深さの溝をきちんと作りましょう。

溝が崩れないよう上手に作るには、前作が終わったら前作の残さや草などを片付け、耕やさないで表面を硬くしておくことです。

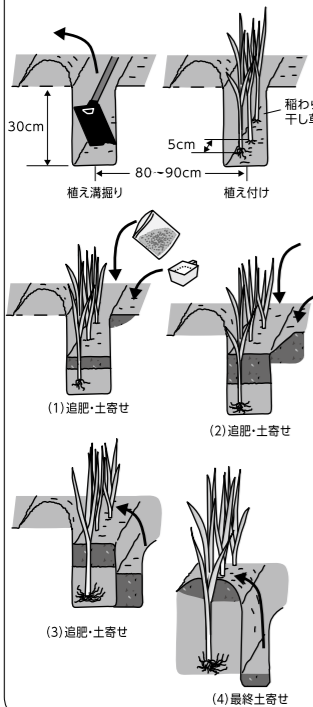
大きさをそろえた苗は、階級ごとに3～4cm間隔に、壁面に立て掛けるようにして垂直に植え付けます。植えた後、根元に2cmぐらい土を掛け、苗が倒れないよう根元を足で踏み付けておきます。その後すぐに溝いっぱい稲わら、干し草などを入れ、倒れないよう、また夏の乾燥、防曇を図ります。植え付け時には肥料はまったく与えず、もっぱら新根の発生を促します。

次は、追肥と土寄せ管理です。

夏の暑さが遠のき始めるとネギは生育を始め新葉が増えてきます。この頃溝の肩の部分に肥料(化成肥料・有機配合など)を施し、くわで軽く土と混ぜ合わせて溝の中に落とし込みます。

9月下旬ころからは盛んに生長しますので、15～20日置きに第2回、第3回と追肥、土寄せを行います。全体的には追肥の重点は前半期に、土寄せは後半にし、長い軟白部ができるようになります。

台風・強雨に見舞われたら、早めに畑を見回り、植え溝内の排水を図ります。ネギの根は乾燥には強いのですが、湿害には大変弱いので、対策は急を要します。風による倒れは曲がりの原因になりますので、できるだけ早めに起こすことが大切です。



## 夏まき野菜の播種

### ★夏まき野菜の播種

夏まき野菜の播種適期が近づきました。夏野菜の収穫に追われ、ついつい播種が遅れがちになってしまいがちですが、品質のよい夏まき野菜を作るには適期播種が重要です。表を参考に、圃場の作付け計画を早めに立てて、圃場の有効利用に努めて下さい。夏まき野菜は大量少品目よりも少量多品目栽培をする方が「作る」、「育てる」楽しみが倍増します。なお、ハクサイ、ブロッコリー、カリフラワー等は早・中・晩生品種により播種時期を変える必要があり、早生種と中～晩生種を同時期に播種することは避けて下さい。

## 果樹

### ★温州ミカンの摘果

着果量の多い樹は今月上旬から摘果を実施して下さい。なお、樹上部の勢いの強い枝に成っている果実は、大きくなりますが、果皮が厚くて糖度の少ない果実にしかならないので、すべて摘果した方が賢明です。

## 野菜害虫多発警報!!

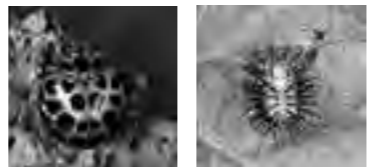
各種害虫類が発生することが懸念されます。特に、アブラムシ類や雑食性のテントウムシダマシ、ヨトウムシ類の被害が考えられますから、早期発見・早期防除を徹底して下さい。

### ○アブラムシ類

アブラムシは多くの仲間があり、体色は透明、緑、白、淡黄、黒と様々です。特にほとんどの野菜類に寄生するモモアカアブラムシには注意が必要です。

### ○テントウムシダマシ

益虫のテントウムシとよく似た形をしていますが、体色は茶色で、黒い点々のテントウムシダマシ成虫、テントウムシダマシ幼虫ある害虫です。成虫、幼虫とも主にナスやピーマンの葉を食害する害虫で、そのまま放置しておくと数日のうちに葉が穴だらけになってしまいます。



### ○ヨトウムシ類

ヨトウムシは、ヨトウ蛾の幼虫で、極めて多食性で、イネ科以外の野菜はほとんど被害を受けます。老齢の幼虫は体長2cmほどで、日中は土中や野菜の株元に潜み、夜間に地上部に出てきて野菜の葉や果実を食害します。「ハクサイやキャベツの葉がムシに食べられレース状になっているのに害虫がいない」、というお尋ねが多いのは、日中地上に姿を見せないヨトウムシに加害されたためです。このように葉は食べられているのに害虫が見つからない場合は、ヨトウムシの被害の可能性があります。

## 水稲

7月～8月は稲の幼穂形成期から出穂期に当たり、最も重要な時期です。中干しをきちんと完了して、雑草や病害虫の防除を徹底して、良質な米作りをしましょう。今月はコメの品質・収量を決定する重要な作業が目白押しです。「実り多き秋」を迎えるための適期管理を実践して下さい。

### 品質向上のための水管理および追肥

圃場の水分が不足すると穂肥分の肥料効果の発現が遅れるので、中干しを終える7月上旬以降は、間断通水で浅水～土が湿った状態を維持し、肥料が適期に効きはじめるようにして下さい。

各品種とも出穂期前後は、比較的多くの水が必要です。水不足の時でも、地域ごとに日割り給水を行うなど水を有効に使ってこまめな水管理を行って下さい。

出穂前の葉色が極端に淡い場合は、乳白米や胴割米の原因になりますので、分施肥系の2回目の穂肥時期に「新工コ追肥」を10kg/10a程度施用して下さい。但し、コシヒカリは過剰に施用すると倒伏の原因になりますので注意して下さい。

### 斑点米の原因となるカメムシ類の防除

例年2等米以下への主な格落ち理由として斑点米があります。

無人ヘリ防除を行えばカメムシが全滅するわけではなく、まず、カメムシにとって住みにくい環境を作ることが重要です。

水田内にヒエ等の雑草があると、カメムシ類の本田への侵入を助長するので早めに除去しておいてください。

薬剤防除については、無人ヘリ防除を実施しない水田では、①1回目は出穂期～穂揃期 ②2回目は糊熟初期の最低2回必要です。

さらに、カメムシ類の発生が多い年は、薬剤の登録に従い仕上げ防除が必要です。



写真1.カメムシに吸汁された斑点米

### いもち病の防除

いもち病は、過剰生育している水田や稲体が軟弱で葉色が濃く、葉が垂れている水田で発生しやすくなります。常発地や葉色が濃いところは注意して、常時観察し発病をみたら防除して下さい。

### 紋枯病の予防

病害は予防が効果的です。昨年紋枯病が発生した水田において、田植時に紋枯病予防効果のある箱施薬剤を使用しなかった場合は、モンカット粒剤(散布時期:出穂の3～4週間前)またはリンバー粒剤(散布時期:出穂30日前～出穂期)を散布して下さい。

### コシヒカリの倒伏対策

7月上中旬頃に葉色が濃く、葉が垂れていたり、草丈が高い場合には、倒伏の恐れがありますので、スマレクト粒剤などの倒伏軽減剤の散布を検討して下さい。

### 【圃場を硬めにしすると作業がしやすく、倒伏対策になります】

中干しが十分できなかった圃場は、出穂期以降収穫期までに間断通水で落水する期間を徐々に長くして圃場を硬くしていきましょう。(収穫前の早期落水は米の品質を落とすことがあるので注意して下さい。)

表. 夏まき野菜の作付け体系一例

品目	品種	播種期	定植期	収穫開始期	品目	品種	播種期	定植期	収穫開始期
キャベツ	全品種	7月上～中旬	8月下旬	11月下旬	ホウレンソウ	全品種	9月上～下旬	-	10月下旬
メキャベツ	全品種	7月上～中旬	8月下旬	11月上旬	コマツナ	全品種	8月上旬～9月上旬	-	10月上旬
ハクサイ	早生種	8月中旬	9月上旬	11月上旬	ナバナ	全品種	8月中旬～9月上旬	-	10月下旬
	中～晩生種	8月下旬	9月下旬	11月中旬	チンゲンサイ	全品種	7月下旬～8月下旬	-	9月下旬
ブロッコリー	早生種	7月上旬	8月下旬	10月下旬	タアサイ	全品種	8月下旬～9月下旬	-	10月中旬
	中～晩生種	7月中～下旬	9月上旬	11月下旬	サンチュ	全品種	8月中旬～9月上旬	-	11月上旬
カリフラワー	早生種	7月上～中旬	8月中旬	10月下旬	ダイコン	全品種	9月上～中旬	-	11月上旬
	中～晩生種	7月下旬	9月上旬	11月下旬	ラディシュ	全品種	8月下旬～9月下旬	-	10月中旬
レタス	全品種	8月中～下旬	9月中旬	11月中旬	カブ	全品種	9月中旬～9月下旬	-	11月上旬